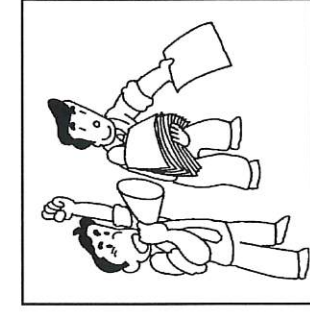


# 全国 検数労連

〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2 日港  
 福会館5階  
 Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622  
 メール roren@kensu.jp  
 ホームページ http://www.kensu.jp/  
 全国検数労働組合連合  
 書記局



11月29日(火) 13:30~14:30 第五回 検数労連22冬季一時金交渉

## 両協会とともに修正回答困難。組合は全日検北海道の『格差回答』・日検協会の『コロナ接種特別休暇』に言及。交渉を打ち切り、明日の交渉再開時に説明を求め。

これまでの交渉でも説明してきた通り、今冬季賞与については急激な物価上昇への対応や、従業員の期待にこたえるために最大限努力した回答であり、これ以上の修正回答は困難であることをご理解願いたい。

諸要求について、保険料の労使負担割合は現行通りでお願いしたい。

コロナワクチン接種における『特別休暇』については、引き続き企業内労使での協議を検討していきたい。

コロナワクチン接種の『特別休暇』については、接種は個人の自由であることから企業として関与できない。また土日接種できる場所もあることから、接種する場合は個人休や土日を活用してほしい。

諸要求回答については、保険料の労使負担割合は従来通りでお願いしたい。

25日の交渉で、当社を取り巻く事業環境を説明し、その中で最大限努力した回答として有難回答を提示した。その後、労組から修正に向けた検討を求められ、持ち帰り再度検討したが現回答が最大限努力した回答であり、これ以上の修正は困難であるとの結果に至ったことをご理解願いたい。

11月29日(火) 第5回検数労連22冬季一時金交渉を開催し、組合は両協会に修正回答を求め交渉を行いました。

**※表題通り組合は本日の一時金交渉を打ち切り、明日13時30分から再開することとしました。**

日検協会の諸要求、特に『コロナ接種特別休暇』については、22春闘で『労使で内部検討する』との確認がされたにも関わらず、今日時点で協議がされていない。企業としてワクチン接種を受けやすくする環境を整えることは、今では社会的責務である。そのような観点からも協議に向けた具体的な説明を求める。

『安定した一時金』であり『生活補填の一時金である』ということを確認すると同時に、格差の要因などについて具体的な説明を求める。

日検協会の諸要求、特に『コロナ接種特別休暇』については、22春闘で『労使で内部検討する』との確認がされたにも関わらず、今日時点で協議がされていない。企業としてワクチン接種を受けやすくする環境を整えることは、今では社会的責務である。そのような観点からも協議に向けた具体的な説明を求める。

しかしながら全日検北海道地区の格差回答について、これまで組合は『生活防衛闘争』との位置付けで交渉を行ってきた経過があり、とりわけ『地域間格差解消』に向けた主張を繰り返してきた。たしかに乗率は引き上げて一定の『底上げ』はできているという部分はあるが、職場では表に出ないアルファ部分の格差回答に敏感に反応する。この間、我々が求めてきたものは業績格差のない回答であり、その回答こそが『安定した一時金』であり『生活補填の一時金である』ということを確認すると同時に、格差の要因などについて具体的な説明を求める。

### 【組合主張】



## 《検数労連中四国支部 平和学習会開催》

11月17日(木) 検数労連中四国支部で、独自の平和学習会を開催したとの報告が届きましたので紹介します。

### 【平和学習会】

今回、初めての試みとして中四国支部単独で、平和都市広島の過去と未来をめぐるウォーキングツアー(ガイド付き)に参加し、戦争と平和に関する主要スポットを巡ることで、より深く広島を感し平和について考えることを目的としました。

まず、出発地点の広島平和記念資料館を訪れました。広島平和記念資料館は、被爆者の遺品や原爆の惨状を示す写真や資料の展示、被爆前後の歩みや各時代の状況などが紹介されており、被害の悲惨さを痛感しました。また、放射能による後遺症

の苦しみや影響についても理解を深めました。

次に平和記念公園に移動しました。園内には多くの記念碑が存在し、多くの平和への願いを感じるとともに、平和の大切さや恒久的な平和のためにどのようなことができるのか考えさせられました。また、ガイドさんから『日露戦争は宇品(港)から始まった』との説明を受け、有事の際に港邊で働く者は無関係ではいけないとの意識を持ちました。

次に爆心地から350メートルで被爆した本川小学校平和資料館を訪れました。資料館では被害を受けた校舎の一部がそのまま保存されており、この建物自体が戦争の悲惨さと平和の大切さを直接訴えています。原爆投下により多くの人間が犠牲になったこと、身近な施設がここまで悲惨な状況になるのかと感じました。

最後におりづるタワーを訪れました。広島平和記念公園の横に建ち、原爆ドームを眼下に街を一望できる屋上展望台があります。復興を遂げた広島ですが、原爆投下直後、眼下には想像を絶する光景が広がって悲惨な状況であったことを痛感すると同時に、広島の人々の復興への強い思い、平和の大切さをあらためて感じました。

今回のガイド付き平和学習ツアーでは、港邊を戦争の兵站基地にさせないために、平和のために、港邊で働く自分たちに何が出来るのかを参加者一人ひとりが考えさせられる学習会となりました。